



桐

桐光会広報誌
第 17 号
平成24年 1 月 1 日発行
調布病院広報委員会
桐光会広報誌編集委員会

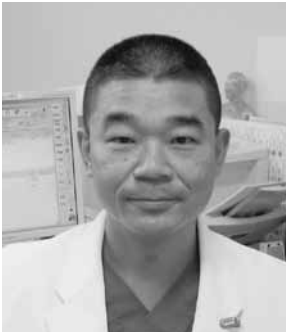
院内救急研修を実施しました



教育委員会と救急委員会の共催で「急変時の対応」について院内研修を行いました。

今回は一次救命処置の中でも主に心臓マッサージ・バックバルブマスクによる人工呼吸の実技を行いました。当院においても一次救命処置のインストラクターや院外で行われる公式の研修を受講した職員が増え、教える側のスタッフも増えたことで、院内のあらゆる職員が患者様の安全を担保すべく技術習得をめざし頑張っています。

救急医療・災害時医療への取り組み



総務省消防庁がまとめた平成23年の消防白書によると去年1年間の消防の救急出動の件数は546万7,000件余りと過去最多になり、搬送中の患者が3つ以上の医療機関に受け入れを断られたケースも5万件近くに上ったことが明らかになりました。

正に医療崩壊が叫ばれ、昨年の東日本大震災による社会経済の停滞もあり、地域救急医療を取り巻く環境はますます厳しくなっています。当院は昭和28年の開院以来、「地域医療の充実」に努めてまいりました。今回は当院の特色であり、小職が最も力を入れてきた救急医療と災害医療についてご説明いたします。

救急医療への取り組み

当院は休日全夜間診療事業が開始された平成11年より継続して東京都指定二次救急医療機関として機能しています。更には東京ルールが開始された平成21年より調布市を含む6市で構成されている北多摩南部二次医療圏の地域救急医療センターとしても機能しており、地域の救急医療体制の一翼を担っています。

当然のことながら救急現場は院外であり、救急現場から医療は開始されなければなりません。救急現場で働く救急救命士と、傷病者を引き継ぐ我々病院医療従事者との連携を密にすることも求められます。

当院は、救急現場での第一線救護活動に従事している救急救命士の方々の病院実習医療機関にも指定されており、平成15年から毎年4~5名の救命士の方々を病院に受け入れています。昨年からは、救急外来のトリアージナースの救急車同乗実習をスタートさせて、相互の医療技術・知識の向上および連携体制の構築に努めています。

また当院では医療従事者の医療・看護技術向上プログラムを積極的に導入しています。山田亜矢副院長主導で“新生児蘇生法コース”を開催したのを皮切りに、矢嶋看護部長と長谷部総師長主導で“INARSコース”や日本救急医学会認定“ICLSコース”などを自院で開催しています。院外の研修にも積極的に参加しており“JPTEC”や“AHA-BLS”“AHA-ACLS”などの技術を習得し、指導者として活躍している者もいます。現在の医療は多職種連携が必要不可欠です。これらのコースには医師や看護師だけでなく、薬剤師や検査技師、理学療法士なども積極的に参加しており、院内の医療・看護水準の向上に寄与しています。

災害時医療への取り組み

昨年の東日本大震災は関東の一部を巻き込み大きな被害をもたらしました。被災地は徐々に復興しつつありますが、福島県の原子力発電所の問題は今もなお、またこれからも長い年月に渡って我々の生活に少なからず影響し続けるものと思われまます。

都市のインフラと云われるガス・電気・上下水道、そして電化製品・携帯電話など“便利”はありがたいものですが、それに慣れるといつの間にか“当たり前”となり、努力して手にいれるものではなく、有って当然、与えられて当然のものに変わってしまいます。暖も取れず、水も飲めず、明かりもなく、電話も通じない状況は、非現実的な気がしてしまいます。

自然災害、特に地震はこれらインフラを一瞬で破壊させてしまう恐ろしいものです。今年が明けて間もなく“揺れ”を感じ、午後にももう一度“大きな揺れ”を感じました。のどもと過ぎれば・・・ではなく、昨年経験した震災を忘れることなく、今後起こるであろう首都圏を巻き込んだ大地震に備えていかなければなりません。

万一の時にも地域の方々の信頼に応えることが出来る調布病院であり続けることを目標に、事業継続計画（BCP）の策定を進めています。

今後も地域の皆様に「安全」に「安心」してお受けいただける医療体制の構築に努めてまいります。

平成24年1月1日 調布病院 院長 大桃 丈知



フロリール通信

行事食報告 お寿司屋さんがやってきた



10月19日に行われたお寿司バイキングの時の一枚です。調布駅南口にあります、「すし銚子丸」の職人さんがフロリール調布まで来て、利用者様の前ににぎりずしを提供するという企画でした。この企画はフロリールの中でも5本の指に入る人気企画となっています。威勢の良い職人さんの掛け声に後押しされるように、この日ばかりは小食の方もお代わりをしてしまうようです。「まだ食べたいけれど、これ以上入らない。」と残念がる方や、次の開催を気にしている方など、とても活気のあるお昼になりました。



レクリエーション報告2 い〜い湯だな フロリールイベント湯

11月10日〜12日に去年も好評を頂いたリンゴ湯を実施致しました。昨年よりもリンゴの数を増量し、香りも見た目もグレードアップ(?)したお湯を提供致しました。

ご利用者様からは「もったいないわ。こんなに立派なリンゴ! 食べてもいいの?」と冗談なのか本気なのか、笑いながら仰っていたのが印象的でした。次のイベント湯もご期待下さい。



た・べ・る・こ・と!

～給食委員会コラム～

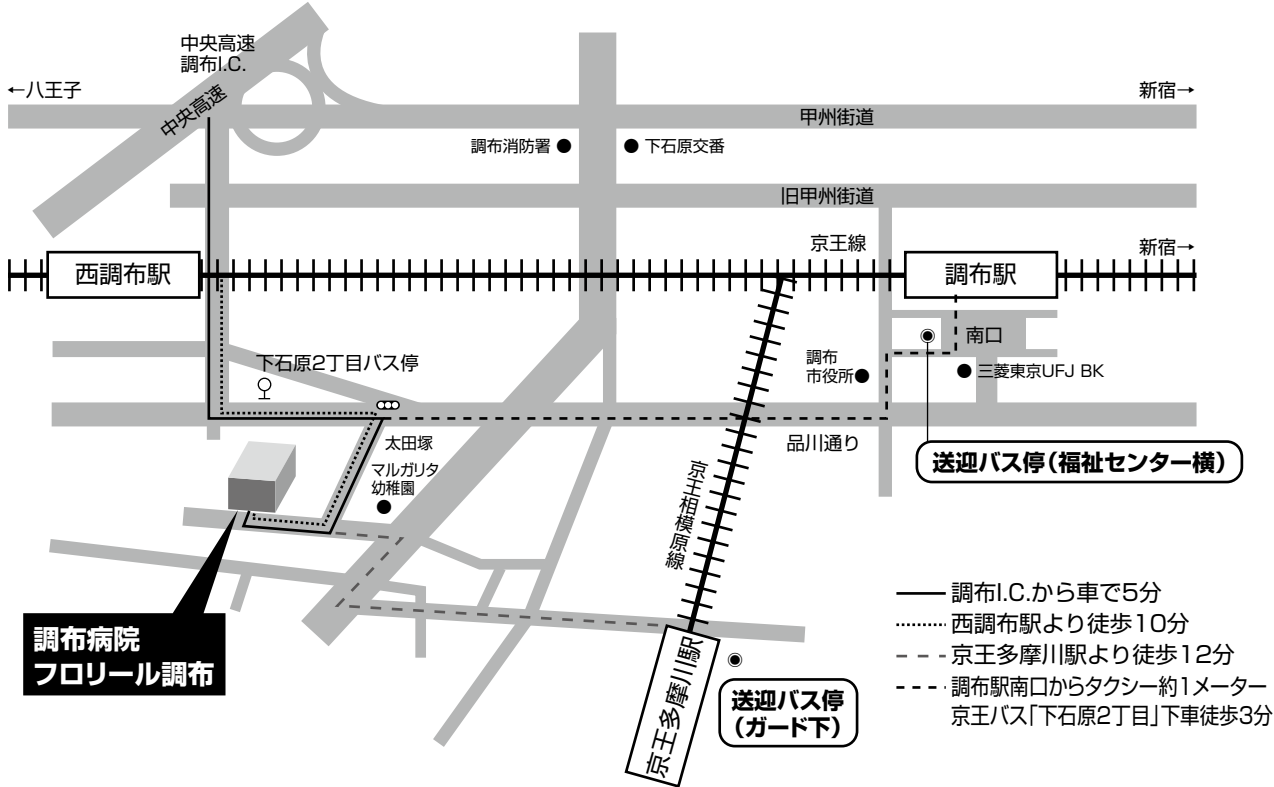
認知症を予防する食生活 認知症の種類について

認知症には主に2つの種類があるのをご存じでしょうか? 原因によって分かれています。1つは「脳血管障害型」で、もうひとつは脳組織の委縮が招く「アルツハイマー型」です。ではこの2種類ではどちらに掛かる人が多いのでしょうか? 正解は、年齢に伴って脳組織が縮んでしまう「アルツハイマー型」で、およそ認知症患者の6割はアルツハイマー型認知症となっています。脳血管障害を併発した「複合型」を含めると実に75%を占めます。



ここに興味深いデータがあります。アルツハイマー型認知症の患者を対象に食事の調査をしたところ肉を好んで食べ、果物や野菜、魚を食べていないという結果出ているのです。そして本人が好きな物を食べ続ける傾向が確認されたのです。また一方で、小食の人、又食事の代わりにお菓子を食べる人に多いという結果が出ています。皆様の食生活はいかがででしょうか? 肉ばかり食べていませんか?

お申し込み・お問い合わせは
TEL 042(484)2627



送迎バス時刻表 福祉センター横 ↔ 調布病院

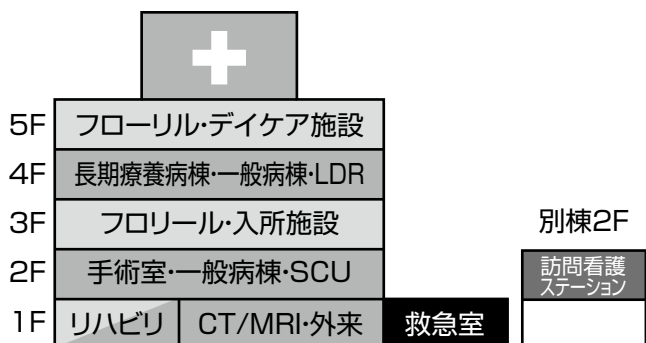
調布駅発		調布病院発	
10 30 37	8	00 20 50	
00 20 40	9	10 30 50	
00 20 40	10	10 30 50	
00 20 40	11	10 30 50	
00 20 40	12	10 30 50	
00 30 40	1	20 30	
10 40	2	00 30	
20 40	3	10 30 50	
00 40	4	30 50	
00 25	5	15	
10	6	00	

○月～金曜日のみ ●火～土曜日のみ ●月曜日のみ ●土曜日のみ



京王多摩川駅経由、京王多摩川からの送迎バスの時刻は調布駅発3～5分後です。日曜祝祭日は運行しておりません。

地域密着型 医療+介護複合施設



医療法人社団 桐光会

182-0034 東京都調布市下石原3-45-1
<http://www.tokokai.or.jp>

調布病院

Tel.042-484-2626(代) Fax.042-481-0323

医療連携室

Tel.042-484-2513(直通)

介護老人保健施設 フロリール調布

Tel.042-484-2627

調布訪問看護ステーション

Tel.042-443-9765